



教育目標 ◎自分で深く考える子 ◎思いやりをもって助け合う子 ◎がんばってやりとげる子

# 佐々木小

令和7年5月14日  
新井田市立佐々木小学校  
学校だより 第4号

～一人一人が輝き、幸せな学校～



## みんなで見守る！

ゴールデンウィークが終わりました。連休明けに登校した子どもたちは、お土産話に花を咲かせ、笑顔いっぱいでした。

新学期が始まってから一か月、子どもたちは、新しいクラス、新しい担任の先生にすっかり慣れた様子です。今は、4月当初の緊張感もなくなり、のびのびと毎日を送っています。

そんな穏やかな毎日の学校生活を送るにあたって、何より大切なことが安全と安心です。学校では、先日、交通安全教室を開催しました。暖かくなって、子どもたちが外に出る機会がぐんと増えてきているはず。それに伴い交通事故に遭わないように交通安全教室で教えてもらったことを生かし、安全に登下校したり、注意して遊んだりして、事故に逢わないようにしてほしいです。

交通安全教室だけに留まらず、日頃から、保護者の方々、地域の方々が子どもたちの様子を見守ってくださっているからこそ、安心・安全に毎日を送ることができるのでしょうか。とても感謝しています。これからも、学校・ご家庭・地域の方々みんなで温かく子どもたちを見守っていきましょう。



## 赤と白

校長 金平 弘之郎

運動会の日が徐々に近づいてきました。リレーや徒競走の練習、応援練習など早々に取り組み、着々と準備を進めています。子どもたちの会話からも、「赤が勝つよ!」「白が勝つよ!」「W優勝を取りたい!」などと、すでに勝敗を気にしている様子もうかがえます。

運動会は、「赤組」と「白組」に分かれて競い合います（そうでない学校もありますが）。赤（紅）と白、この2色は、私たちは縁起の良い色の組み合わせとして慣れ親しんでいます。調べてみると、源平合戦で使われた旗から由来しているという説がありました。源氏が白旗、平家が赤旗だったそうです。私の印象では、入学式や卒業式などお祝いの色の感が強く、とても鮮明で素敵な赤と白の色が戦いの象徴になっていたなんて信じられません。でも、青組と黄組、緑組と黒組などだと何だかピンと来ないのも事実です。やっぱり赤と白だから、凜と身が引き締まり、対抗意識が高まるような気がしてきませんか。

さて、そんな赤組と白組ですが、応援団が先頭に立って、運動会の気運を盛り上げてくれています。先日行われた応援団の結成式で、私は応援団の子どもたちに2つの話をしました。

一つ目は、「競技だから、必ず勝敗がつくこと。どちらかが勝ち、どちらかは負けるということ。勝っても負けても悔いが残らないように運動会まで過ごすことが大切」と。これは、どうしても受け入れざるを得ない現実です。でも、勝敗があるからこそ、勝利に向かって最大限努力する力が湧いてくるのでしょうし、最後に素直にお互いの健闘を称え合うことができるのです。子どもたちにその時の達成感と受容感をたっぷり味わってほしいのです。

もう一つは、「運動会当日の自分の姿を想像すること。自分のどんな姿が浮かんでくるか?」と。子どもたちは、その問いかけに目をつむってしばらく想像に浸っていました。どんな姿か、一人一人に確認しませんでした。目を開けた子どもたちの表情が、キリッと引き締まっていたことは確かでした。自分の理想の姿を目指していくことは大切なことです。子どもたちの思い描いている姿を私は知りませんが、それぞれの子が描いた姿に向かって努力してくれるはずですよ。

きっと、運動会当日、これでもかというくらいはつらつと振る舞い、歯を食いしばって大きな声を出し、疲れがきても頑張るって体を動かし、そんな中でも爽やかな笑顔を絶やさない、こんな姿が見られることでしょう。

勝負は無情です。赤が勝つか、白が勝つか。私たち、見ている側と実際臨んでいる子どもたち側では、勝敗の捉えは、ずいぶん違うことでしょう。勝ちはとてもうれしく、負けはとても悔しいことは想像に難くありません。正直、「全力を出したから立派」「今までやってきたことに価値がある」なんていうねぎらいの言葉など、さして子どもたちの心に刺さらないかもしれません。特に応援団の子どもたちには、言葉にできない思いが湧き起こるはずですよ。でも、この言葉にできない思いを心の糧にすることで、子どもたちはまた一回り成長するのです。

赤と白、この2色が、運動会の、そして子どもたちの熱い思いの象徴です。赤と白が躍動し、大きな感動を私たちに与えてくれることでしょう。ぜひ、運動会当日を楽しみにしていただきたいと思います。

